

## 生き生きとした笑顔が輝く東中生の育成

### ～ふれあいや体験を重視した『スマイル活動』を通じて～

尾張旭市立東中学校

#### 1 はじめに

本校は、平成20・21年度の2年間、国立教育政策研究所より「生徒指導総合連携推進事業」の研究委嘱を受けた。この事業は、いじめ・暴力・不登校・少年非行など、児童生徒の問題行動が多様化する中で、学校・家庭・地域及び関係機関等が協力して、問題行動の予防や解決を目指すとともに、児童生徒の健全育成に向けて実践的な取り組みを行うことを主な趣旨としている。

本校生徒の実態として、地域の方々から、挨拶がよくできるとの評価をいただく反面、中には、友達関係でトラブルを起こしたり、登下校時に、地域の方々からマナーについてご意見をいただいたりするなど、ご迷惑をおかけすることも実際に生じている。

ここ1～2年は特に、携帯電話の普及の勢いが強く、メールでのトラブルやネット上での「いじめ」などの新たな問題も生じてきている。

本市は、名古屋市を取り巻くベッドタウンとして急速な都市化の傾向が見られ、それとともに、地域に伝わる伝統的な行事の継承や住民間のコミュニケーションが次第に薄まることも心配されている。健全な心を育成し、規範意識を向上させるためには、地域とともに生徒を育てていく気運と意識の醸成が不可欠であるが、そのためには、学校・家庭・地域及び関係機関との連携を深めていくことが重要である。

このような実態をふまえ、研究の中心概念を「Smile = 笑顔」づくりとすることにした。様々なふれあいの場や交流の機会を図り、積極的に体験活動に取り組みさせる中から、感動や喜びを胸に、明るく元気に「笑顔」で登校できることが、健全な心の育成を目指す上で、何よりも大切なことであるとの認識に立って、研究実践を進めることにした。

#### 【中心概念「Smile(笑顔)」】

Sound	(健全な)・・・健全な
Mind	(心)・・・心の育成を目指して
Interact	(交流)・・・様々なふれあいや交流を図り
Learning	(学習)・・・多くを学んで
Experience	(体験)・・・積極的に体験活動に取り組む

本研究の具体的なねらいを「健全な心の育成」と「規範意識の向上」とした。そして、それら二つのねらいを達成するために不可欠な「学校・家庭・地域の連携強化」も本研究の三つ目のねらいに掲げ、以下の仮説を設定した。

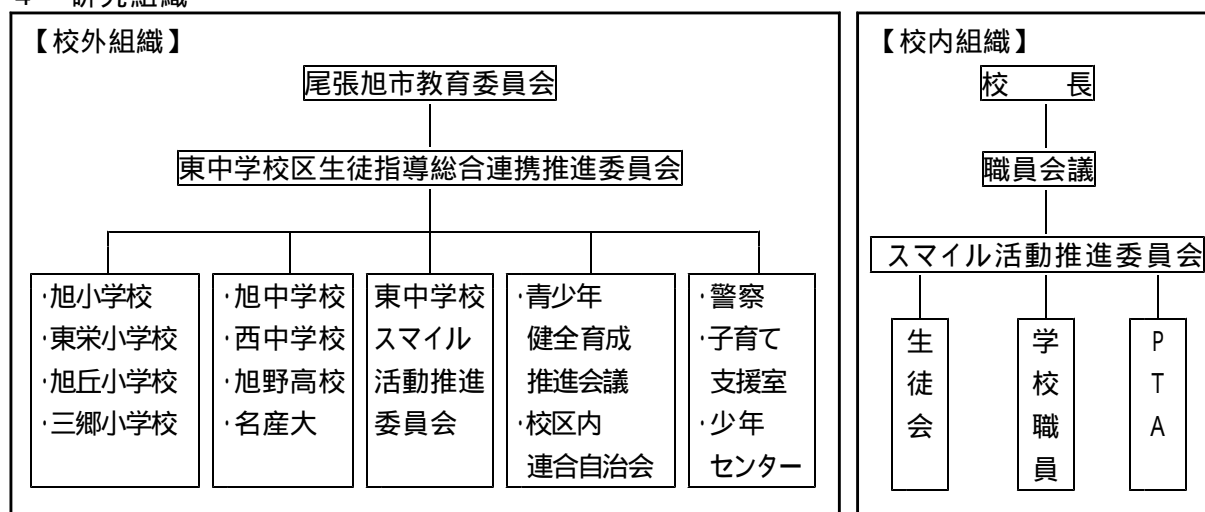
## 2 研究仮説

様々な人とのふれあいや交流を通して、望ましい生き方の姿を学ぶとともに、積極的に体験活動に取り組むことにより、規範意識が向上し、健全な心が育つであろう。

## 3 研究の手立て

学習活動や行事、その他の、生徒が主体的に活動する場面で『スマイル活動』と称したふれあいや体験を重視した活動に、積極的に取り組ませるようにした。

## 4 研究組織



[ 参考資料 東中学校区内の小学校及び市内中学校 ]					
学校名	学級数	児童数	学校名	学級数	生徒数
旭小学校	19	493	旭中学校	23	799
東栄小学校	21	596	東中学校	24	792
旭丘小学校	18	513	西中学校	18	594
三郷小学校	21	638	( 平成20年5月現在 )		

『スマイル活動』を進めるにあたり、対外的な組織として、市教育委員会、学校関係、教育関係機関団体、行政機関、警察、自治会等からの25名を委員とした「東中学校区生徒指導総合連携推進委員会」を組織した。また、実務者委員会として、東中学校内に「スマイル活動推進委員会」を設置した。特に、「スマイル活動推進委員会」には、関係職員だけでなく、本校生徒の自主的な活動を促すために、生徒会執行部が委員として参加し、企画・準備に携わっていることが大きな特徴である。



スマイル活動推進委員会

## 5 研究の内容

### (1) 教科指導の充実

学習場面で、様々な実績や技術を有する人たちとのふれあいの場と機会を充実させた。

話し方講座（国語，NHKアナウンサーの招聘）

講談の会（国語，「那須与一」の講談を鑑賞）

のこぎり講座（技術，シルバーさんから学ぶ）

スマイル健康講演会（保健体育，産婦人科医による性教育）

【講談の会】 私は、講談師という職業を初めて知りました。難しい言葉話を話しているのに、どんな内容なのかよく分かって、すごかったです。また、自己紹介も上手で、いろいろなことを伝えてくれました。私は、それを忘れないで生きていきたいと思います。（2年女子）



話し方講座



シルバーさんと技術授業

【スマイル健康講演会】 講演を聴く前は、「性」はいやらしいことだと、思っていました。しかし、産婦人科医の先生は、「性=生」ということを教えてくれました。そして今、性について知ることは、他人や友達などを傷つけないことにつながるということが分かりました。（2年女子）

その道の達人である大人とのふれあいの機会を多くもった結果、健全な心の育成を図ることができた。

### (2) 行事の充実

行事の場面でも、『スマイル活動』に取り組み、校内での各種の実践的な取り組みの定着と充実を図った。

体育祭で親子競技（玉入れをPTA参加種目に）

文化祭に保育園児招待（模擬店を一緒に楽しむ）

クリーン作戦地域拡大（活動範囲を前の上公園に拡大）

スマイル記念講演会（本研究の記念事業）



体育祭での親子競技

特に、「スマイル記念講演会」では、生徒の意見も参考にし、北京五輪トライアスロン日本代表の山本良介選手を招いた。山本良介選手は高校時代から暴走族に入り、ケンカに明けくれた毎日から母の言葉をきっかけに立ち直り、厳しい練習に耐え、オリンピック選手までになった方である。



スマイル記念講演会

【スマイル記念講演会】「目標を立てればどんなことがあろうとがんばって乗り越えられる。」という言葉がすごく心に響きました。そして、いつもそばにいてくれて、自分のことを支えてくれる家族、友達、先生への感謝の気持ちを絶対に忘れてはいけません。自分は一人ではない。自分の人生、未来について考えるととても良い機会になりました。(3年男子)

山本選手の思いや生き様から、生徒が自分の生き方を見つめるよい機会となった。

### (3) 学校・家庭・地域との連携

学習活動や行事以外の場面でも、『スマイル活動』に取り組んだ。ここでは、主に学校・家庭・地域との連携強化を図った。

スマイルニュース発行(毎月発行)

生徒会PTA合同あいさつ運動(PTA活動の活発化)

地域へ花の苗を配布(緑化委員会・PTA環境部合同花壇整備)

エコキャップ活動(エコキャップ800個でワクチンを一つ贈る)

スマイルセレモニー(エコキャップ100万個達成記念事業)

ラオスの方との交流会(ラオス出身の舞踏家と国際交流)



地域へ花の苗の配布



新聞報道

まず、地域の方々に事業内容や活動について広報するために、毎月「スマイルニュース」を発行したり、新聞やケーブルテレビに、活動内容を積極的に取り上げてもらったりした。また、生徒会・PTA合同のあいさつ運動を定期的実施するなど、PTA活動を積極的に展開した。特に、緑化委員会・PTA環境部合同の花壇整備による「地域の方への花の苗の配布」では、多くの方が喜ぶ顔を見て、生徒の満足そうな笑顔が広がった。

生徒会が始めたエコキャップ活動には、本当に多くの反響をいただいた。校区内の小学校訪問や市長訪問で協力を要請した結果、地域ぐるみの活動として盛り上がった。特に、新聞などの影響が大きく、学区以外の方からも激励の手紙をいただいたり、新聞の投稿欄に東中学校を応援する記事が掲載されたりし、生徒の意欲化が図れた。

【エコキャップ活動に参加して】(生徒感想)

- ・小さなことでも人の役に立てるんだと思い、募金とかできることが少しでもあればやりたいです。
- ・自然とキャップをとっておくようになったし、何でも適当に捨てないようになりました。
- ・一人ではできないことも、みんなで協力すればできるということが分かりました。
- ・今、世界の子どもたちが苦しんでいるのを手助けできて、うれしかったです。
- ・ちょっと意識するだけで、大きな変化を見ることができて、びっくりしました。
- ・エコなどのいろいろな活動に興味をもつことができました。
- ・キャップを出すたびに、命の大切さについて考えるようになりました。
- ・学校全体で一つの目標に向かっていく意識が変わりました。
- ・世界の子どもの様子を知り、自分が生きていることに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。
- ・自分もやればできると思いました。何事にもチャレンジすることが大切だと思いました。
- ・自分たちのことだけでなく、地球全体のことを考えるようになりました。

1年半の活動の結果、生徒会が目標に掲げていた、エコキャップ100万個を達成したため、「スマイルセレモニー」を実施した。生徒会が1年半の活動を振り返り、JCVの方から、途上国で実際にワクチンが使われている様子を知った。そして、エコキャップ推進協会から感謝状をもらい、生徒に達成感をもたせることができた。さらに、ワクチンが送られる国の一つであるラオスの方と交流し、国際理解を深めた。

【ラオスとの交流会】ラオスは、ワクチン接種もできないことから、「貧しい国」と思っていました。すがすがしい服などの技術があり、そのような考えは、ふっとびました。これからは、偏見などをもたないようにします。(1年男子)

## 6 取り組みの成果

### (1) 「健全な心の育成」について

次の作文は、本校生徒がエコキャップ活動を題材に、夏休みの作文募集に自主応募したものである。『スマイル活動』が生徒の心に根づいていることが分かる。

### **明るい社会づくりの会 実践体験発表 平成21年度「県賞」受賞作品**

みなさんは、東中学校で行っている活動を知っていますか。東中学校では、エコキャップ活動というのをしています。これは、ペットボトルなどのキャップを集めると、お金になり、ワクチンが無くて苦しんでいる子どもたちを助けることができる活動なのです。

この活動は、東中から始まり、市内の小中学校や大学など、どんどん広がっていきました。この様子を見ていて、私も協力したいと思い、お母さんの協力を得て、キャップを集め始めました。ちょっとしたことで、多くの人の命を助けることができると思うと嬉しい気持ちになります。

そもそも、エコキャップ活動とは、ペットボトルなどのキャップ800個で、ワクチンが一つ買えるというのですが、東中は、生徒が約800名ですから、全校生徒が一人一つずつ集めればよいということで、とても身近な感じがして、より興味が出てきました。

この活動は、新聞でも取り上げられ、また生徒会の人たちが尾張旭市長さんや小学校児童会の人たちに説明に行ったり、大学生の人たちからキャップをもらったりして、協力をお願いをしてきました。こうした広がりを見ていて、自分の通う学校から始まったことに誇りを感じます。学校全体が取り組んでいるので、自分がこの学校でよかったとも思います。

エコキャップ活動は、貧しい子どもたちを助けるための活動ですが、なぜ貧しい人がいるのだらうと思います。戦争とか、一部の身勝手な大人の行動が、原因ではないのかなと思います。

また、スマイル活動推進委員会を発端に、11月に実施した生徒会役員選挙立会演説会で、エコキャップ活動の影響を受け、「プルトップ収集活動に取り組みたい」「環境週間や身だしなみ週間等の週間を定期的に設定したい」など、エコキャップ活動に代わる新たな運動が、次々に提案された。自らの手で新しい東中学校を創造していくという高い意識や、地域の人のために役立とうという気持ちが見られるようになった。新生徒会役員は、エコキャップ活動に協力してくれた4小学校などに感謝状を贈ったり、12月からアルミ缶のプルトップを収集して、車いすを施設などに贈ろうとしたりと、新たな活動を始めている。



感謝状を贈呈

(2) 「規範意識の向上」について

生活・規範意識アンケートを、2年間で3回（平成20年度6月・2月，平成21年度10月）実施し、研究の成果を数値的に見た。

【通学路を守って登下校している】や【落ち着いた姿勢でSTや授業を受けている】の設問から、「規範意識の向上」がうかがえる。そして、【給食当番や清掃活動に取り組んでいる】や【朝の登校時間や授業の開始時刻を守っている】の設問でも、「しっかり取り組んでいる」「まあまあ取り組んでいる」の項目が、常に90%を越え、これらの結果からも「規範意識の向上」の様子が見えてきた。

【通学路を守って登下校している】

	守っている	だいたい	あまり	守ってない
第1回	39.2	35.6	14.0	11.9
第2回	39.5	34.1	13.7	13.3
第3回	49.1	35.2	8.8	7.5

【落ち着いた姿勢でSTや授業を受けている】

	いつも	まあまあ	あまり	ほとんど
第1回	25.7	52.3	17.3	5.5
第2回	32.4	50.1	12.0	6.3
第3回	41.2	48.3	7.3	3.8

また、携帯電話に関しても、警察からの講習会や、集会・通信を通じての啓発活動などの様々な活動によって、直接的な被害は減少傾向にある。しかし、携帯電話の普及の勢いは依然として強いため、今後とも学校・家庭・地域が協力しながら、携帯電話による問題に取り組んでいきたい。

(3) 「学校・家庭・地域の連携強化」について

エコキャップ活動では、「100万個収集」という目標を達成した。これは、活動内容や学校の様子などを保護者や地域の関係者に向け、マスメディアも活用しながら、広報・啓発活動を行い、学校間、学校・家庭・地域との連携が強化された大きな成果である。

## 7 おわりに

「生き生きとした笑顔が輝く東中生」を研究目標に設定し、『スマイル活動』と称したふれあいや体験を重視した活動に積極的に取り組んできた。学校の教育活動を核として、家庭や地域に周知するとともに、様々な関わり方を展開することにより、相互の理解と協力が深まり、一層の連携の強化につながってきている。これからも、『スマイル活動』を息長く継続し、地域とともに児童生徒を育てていくための気運と意識を向上させていきたい。